

令和3年度 自己評価表（最終評価）

鳥取県立米子西高等学校

<p><b>中長期目標 (学校ビジョン)</b></p>	<p>多様な価値観を尊重し、主体的に生きる力を育み、持続可能な地域を創造する人材の育成を図る。</p>	<p><b>今年度の 重点目標</b></p>	<p>1 主体的に取り組む態度・思考力・実践力の育成 2 他者を認め、人とつながる力の育成 3 地域を知り、地域に参画、寄与しようとする力の育成 4 働き方改革の推進</p>
----------------------------------	---	-----------------------------	---

年 度 当 初				評 価 結 果 2月（最終評価）			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 主体的に取り組む態度、思考力の育成	授業改革の推進	各教科ごとにアクティブ・ラーニング推進月間を設定し、研究授業、授業研究会を実施している。ICTの活用を推進する必要がある。生徒アンケートの結果では意欲的に学習に取り組んでいると答えた生徒は86%であった。	授業研究会の質的向上とICTの活用を推進し、授業スキルの向上を図り、主体的・意欲的に学びに取り組んでいると答える生徒が85%以上になる。	・主体的、対話的で深い学びの推進を図り、ICT活用の職員研修を充実させ、授業でのタブレットや電子黒板を利用する教員の増加に繋げる。（R2：80.9%→R3：90%） ・授業アンケートを実施し、自らの授業を振り返り、授業力の向上を図る。	・各教科のアクティブラーニング推進月間を中心に授業改善に取り組んだ。授業でタブレット・クロームブックや電子黒板を利用する教員は、 <b>89.5%</b> となった。 ・Google Classroomを利用した授業形態に取り組み、新しい教育手法に取り組んだ。 ・2学期に実施した授業アンケートの結果、意欲的に授業に取り組んだと答えた生徒が90.6%であった。	B	・ICTの活用で生徒の学力が向上しているのか、定期考査、模擬試験、課題を分析、検証し、授業改革を図る。 ・新しい授業スタイルを研究し、教員の授業力向上を図る。 ・授業改革を推進し、生徒の自主性を伸ばす指導実践に力を入れる。
	みらいチャレンジ活動の充実・発展	みらいチャレンジ活動も5年を経過した。自分の問題として課題を設定したり、フィールドワークを実施したりするグループも徐々に増えてきたが、まだ調べ学習に終わるものも多い。	地域の資源を活用した多様な教育活動をとおして、主体的に活動できる力が身につく。	・ハイレベル講座を7月に開催し、「思考力・判断力・表現力」の強化を図る。 ・グループ学習やフィールドワーク等を積極的に導入し、課題解決学習の充実を図る。	・新型コロナウイルス感染症の広がりにより、事業所訪問を始め地域連携の取り組みが縮小や休止となった。また、成果発表会が実施できなかったものの、ハイレベル講座を12月に実施。課題解決学習の意義やその学習が現在求められている理由を知り、生徒のやる気を引き出す講義となった。 ・プレゼンテーションの職員研修を実施し、職員の指導力向上を図った。	B	・教職員全員が活動の趣旨を十分に理解し、積極的に取り組む。 ・環境の変化に対応できるように、活動をリモートで行えるよう準備を整える。 ・実施できなかった成果発表会の内容を、次年度の生徒に伝達できるようにする。
	学習習慣の定着	家庭学習時間調査結果によれば、1日の学習時間（1年94分、2年122分、3年202分）が不足している。	体系的・組織的な「学習記録」を導入し、学習習慣が定着する。	・「学習記録」を導入し、自らの振り返りを通して、主体的に学習する習慣が身につくように指導する。 ・教科面談シートを活用し、成績不振者への指導を行う。	・6月→9月の家庭学習時間調査は、それぞれ、1年次135分→140分、2年次71分→81分（文系72分、理系119分）、3年次135分→164分であった。2年次、特に文系の日常的な学習は少ない。	C	・授業のみにとどまらず、GoogleClassroomなどと連携させながら、生徒がさらに主体的に学習できる環境を <b>研究する</b> 。 ・学習記録に基づいた生徒面談を実施し、効果的な個別指導を行う。
	進路指導の充実	国公立大学現役合格者数が51名・難関私立大現役合格者22名であり、目標を達成できた。	国公立大学現役合格者50名 難関私立大学現役合格20名	・学年団と進路指導部との連携を密にし、面談等を通して生徒理解に努め、生徒一人ひとりに応じたきめ細かな進路指導を行う。 ・生徒の能力を最大限に引き出せるよう、講習等の時期や内容について検討し、効果的に実施する。	・総合型選抜など幅広い入試に対応できるよう面談等を利用して指導を行った結果、3月25日現在国公立大に <b>22名が合格している</b> 。 ・共通テストにおいて全国平均が文系44点、理系59点くらい低下しているのに対して、本校平均点は前年比で文系+2点、理系で-30点と健闘した。	B	・総合型・学校推薦型選抜入試に対応できるようプレゼンテーションやグループディスカッション力が身につくよう指導する。 ・進路ガイダンスの充実を図り、生徒へ早期に動機付けをする。
2 他者を認め、人とつながる力の育成	基本的生活習慣の確立	真面目な生徒が多く、年間の遅刻回数が1回以下の生徒の割合は80%である。自己肯定感の高まりを感じる生徒が48%程度である。	・年間の遅刻回数が1回以下の生徒の割合が80%以上。 ・自己肯定感の高まりを感じる生徒が70%。	・令和元年度末に導入した「遅刻届」を活用して指導する。 ・掃除を徹底し、奉仕の精神を培い、校内美化に努める。 ・SNSモラルについて指導し、情報リテラシーの育成を図る。 ・探究的な活動や生徒会行事、ボランティア活動等、様々な活動を通して、生徒に達成感・効力感を獲得させる。 ・生徒面談を活用して生徒の学習意欲を喚起しモチベーションを引き上げる働きかけを行う。	・年間の遅刻が1回以下の生徒の割合は90%であった。 ・挨拶する生徒は多いが、自ら進んでできる <b>までに至っていない</b> 。 ・清掃については概ね良好であった。 ・自己肯定感の高まりを感じる生徒の割合は57.1%で目標を達成できなかった。	B	・基本的生活習慣が学校生活を送る上で大切であることを認識させ、様々な場面において自主的に行動できるよう働きかけを行う。 ・情報モラル・リテラシーの指導を継続し、トラブル防止に努める。 ・生徒面談を活用し、生徒の意欲を喚起する取り組みを充実させる。
	部活動の奨励	多くの生徒が部活動に所属し、活発に活動しているが、学業との両立に苦慮している生徒もいる。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大で多くの大会が中止となったが、運動部全国・中国大会7競技、文化部全国大会5部門が出場した。	運動部全国・中国大会20競技以上、文化部全国大会5部門以上出場	・本校部活動方針の枠組みの中で、効率的な部活動運営と生徒の主体的な取組を促進させる。 ・部活動と学業との両立ができるように、生徒個人の状況を把握しながら、部活動指導を行う。	・新型コロナウイルス感染症の影響で様々な制限がある中で、年間を通して効果的な部活動運営と生徒の主体的な活動がみられた。 ・運動部は全国・中国大会に23競技、文化部は全国大会へ5部門が出場した。 ・新人戦で団体種目の活躍が顕著であった。	B	・新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、効率良く意欲的な活動ができるように計画を立てる。
	社会人講師の活用	社会人講師活用事業や家庭科・公民科の授業等で実施している。	社会人講師から多様な考え方や生き方、最先端の技術等を学ぶことで、社会の一員となる意識が身につく。	・人権教育・主権者教育・キャリア教育等幅広く社会人講師を活用し、豊かな心の育成、望ましい人間関係の構築、社会に参画する態度の育成を図る。	・新型コロナウイルス感染症のために中止になったものが多かったが、それ以外は年間計画通りに各学年の講演会を実施できた。生徒の反応はおおむね良好で、普段の授業では学べない知識・スキルを学び、社会や他者との関わり方や自分の生き方について考えさせることができた。	B	・生徒の実態や興味・関心を踏まえ、適切な講義を講師に依頼する。 ・緊急時にはリモートで対応できるよう計画する。
3 地域を知り、地域に参画、寄与しようとする力の育成	地域資源を活用した教育活動の推進	地域資源の活用と積極的な地域連携を推進するために、令和元年度に米子市と「ふるさと教育における連携に関する協定」を締結した。	みらいチャレンジ活動において、年間5回の連携を図り、地域理解が深まる。	・米子市と連携を密にし、円滑な探究活動を実施する。 ・課題テーマの提供、地域資源の紹介・接続、研究活動に係る指導助言、評価等について、米子市と連携し、探究活動の充実を図る。	・4月実施「市職員との合同ワーク」では、各グループで事前に準備された質問が、学習の深さを感じさせるもので、今後の課題解決学習に期待が持てるものが多かった。 ・米子市における農業・観光分野に課題を設定し、研究を深め、社会に寄与する活動をし、市から好評価を得て事業化の検討をされたグループの取り組みもあった。 ・米子城跡のPR動画を自主的に取り組むチームも出た。	B	・ルーブリック評価表を導入し、生徒自身に自己評価させたが、目標に向けてどのような取組が必要なのか理解できたようである。更にこの評価表を充実させ、生徒の意見を反映させて、探究活動に取り組むよう促す。
	学校の魅力・特色の情報発信	文化部が協働し、文化部総合芸術祭「翠燦く」を開催し、地域に本校の魅力を発信している。（令和元年度は新型コロナウイルス感染症予防のため中止）	地域に情報を発信するとともに、地域を理解し、社会に貢献する態度が身につく。	・「翠燦く」と「みらいチャレンジ活動成果発表会」の企画・運営方法を早期に決定し、部活動の枠を超えたコラボレーションや学習成果など、学校の特色・魅力を効果的に発信できるよう計画する。	・3年次生が探究活動の重要性をアピールする「みらいチャレンジを楽しもう！」動画を自主的に作成し、 <b>広報活動</b> に取り組んだ。中学生の保護者の方から興味深いというコメントも得られた。また、動画を本校ホームページにアップし、入学希望者や保護者、地域の方々へ本校の取り組みを周知できた。	A	・社会環境の変化に順応した発表方法を工夫し、学校情報の効果的な発信を行う。
4 働き方改革の推進	時間外業務時間の削減	部活動の指導時間や教材研究、分掌業務等で、時間外業務を削減できない教員もあった。	時間外業務時間月45時間、年間360時間を超える勤務者の解消。	・「鳥取県立米子西高等学校部活動に係る方針」を遵守する。 ・行事、会議の精選によって業務の効率化を図る。 ・各分掌の業務内容の見直しを図る。	・昨年度よりも時間外業務は全体では減少しているが、時間外業務には個人差があり、基準を超える職員もあった。	C	・一人ひとりの意識向上を図るとともに、業務の見直しや会議の精選を行う。

評価基準 A：十分達成 [100%] B：概ね達成 [80%程度] C：変化の兆し [60%程度] D：まだ不十分 [40%程度] E：目標・案の見直し [30%以下]